

アドミッションセンターの 取組と課題

国立大学アドミッションセンター連絡会議事務局 白川友紀
(筑波大学アドミッションセンター長)

平成11年、国立大学にアドミッションセンター（AC）ができ、その後多くの大学に拡大し、また変容が続けている。ACの任務の主なもの、入試の研究と実施、受験生向けの広報などである。特にアドミッション・オフィス入試（AO入試）の研究と実施を主な任務とするACが多い。AO入試では各々の大学、組織のアドミッション・ポリシーや受験生の個性に応じた多様な入試を行う。そのため、一言でACと言っても各々の大学によりその形態や業務は様々である。それ故に各様に課題があり、その課題を解決するためACは拡大や変容が続けている。

ACと言えば入試に関する業務だけを行うように思われるが、実際はAO入試に関連して合格後から入学までの間の準備教育もACが行うケースも少なくない。入試の研究には入学後、卒業後の追跡調査も必要であり、学生の「その後」からも目が離せない。また、受験生向けの広報として各地での進学説明会や高校訪問、オープン・キャン

パスも行っており、高校への訪問の際に出張授業などの高大連携を頼まれるケースもあるので、その結果として高大連携の業務にも関わることが多くなる。どのような業務でも同じことであるが、熱心に業務に取り組めば取り組むほど新たな業務が派生し課題が増えるのである。

しかしながら業務は増えても一方で大学全体としては教職員の削減が進められている。そのためには各部署で定員削減をするのではなく、共通の業務を絞り出して統合するなどの組織改革を行っていかなくてはならない。いきおい、できたばかりのACであるが、発足後4～5年でACを含めた改組をする動きもまた活発である。

AO入試については、当初から「学力の低下を招く」「青田買いではないか」といった懸念の指摘や、従来の「受験」対策では対応できないことに対する不安が表明される反面、高校からはAO入試に知識や理解を問うような問題ではなく意欲、思考力や判断力を問うような入学試験を期待する声も

あった。そして現在では推薦入学とともにAO入試も拡大し、入学者選抜の一つとして社会的に認知されてきている。また、ACという入学者選抜を専門的に研究してその調査結果を選抜に反映する組織、つまり入試の専門家が大学の中で存在意義を認められるようになってきた。今後ACによりAO入試の成果の評価が進めば社会的な認知も進んでいくと思われる。大学入試が改善され教育全般の改善につながっていけば、社会からもその存在意義がもっと認められるようになるであろう。

このような課題に取り組むために、平成15年、国立大学アドミッションセンター連絡会議（AC連絡会議）が発足した。AC連絡会議では発足以来、ACに関連するあらゆる問題について毎年研究会を開催し、各ACの相互の交流や情報交換を行ってきた。この会議が今後各大学の入試関連活動の改善、大学入学者選抜の質的な向上とそれによる中等教育の質の向上に貢献するよう努めていきたいと考えている。このような成果の社会へ情報発信もまた各ACとAC連絡会議の責務であろう。

以下、平成18年5月31日（水）に開催された「国立大学アドミッションセンター連絡会議第4回総会研究会」の概要を報告する。

平成18年5月31日（水）から6月2日（金）まで、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」で第1回「全国大学入学者選抜研究連絡協議会」が開催された。この第1回「全国大学入学者選抜研究連絡協議会」の初日、静岡大学に手配いただいて同じ会場「グランシップ」で、アドミッションセンター連絡会議第4回総会が以下のように開催された。

- 日 時 平成18年5月31日（水）
10時30分～12時45分
- 場 所 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
9階908会議室
- 出席者 20大学（14加盟大学及びオブザーバー6大学）から66名
- 来 賓 文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長補佐
- 内 容
- ・会長挨拶
 - ・来賓祝辞
 - ・運営に関する議事
 - 役員の交代について
 - 新加盟の承認
 - 運営費について
 - 会計報告
 - ・AO入試に関する報告
 - (1) 鳥取大学（福島助教授）『鳥取大学アドミッションセンターの目指すもの』

- (2) 広島大学（杉原教授）『広島大学AO選抜の現状と課題』
 (3) 愛媛大学（井上助教授）『愛媛大学のAO選抜』

この第4回AC連絡会議では、研究交流として上記のように鳥取大学、広島大学、愛媛大学の3大学から報告があった。この3件の概要を発表者の先生方に書いていただいた。これからAO入試を行う事を考えておられる方々などのご参考になれば幸いである。

鳥取大学アドミッションセンターの目指すもの～マーケティング志向のセクションへ～

鳥取大学アドミッションセンター
助教授 福島 真司

はじめに

鳥取大学アドミッションセンター（以下、AC）は、平成14年度に設置され、翌年度に専任教員2名を配置した。それ以降、高校訪問、各種相談会、高校内ガイダンスに積極的に参加し、また、入試に関する諸調査の実施や、入学前教育の実施等、受験する側である高等学校等に極力配慮し、マーケティング活動を強く意識したセクション運営を目指している。

1 AO入試募集概況

導入から現在まで、募集人員を増加させ、出願者数についてもおおむね増加傾向にある。

・平成16年度入試

導入初年度。4学部中、医学部を除く3学部・13学科で実施し、募集人員31名に対し、出願者222名、合格者43名。

・平成17年度入試

募集人員36名に対し、出願者209名、合格者49名。

・平成18年度入試

募集人員54名に対し、出願者249名、合格者62名。

なお、現在実施中の平成19年度入試については、募集人員61名に対し、出願者326名。

2 ACの諸調査活動

ACでは、諸調査を行い、常に学内外のAO入試に対する意識や要望を探りながら、次年度以降の入試実施に反映させている。

・志望要因に関するアンケート調査（一般入試合格者対象：平成14年度以降）

・AO入試導入前アンケート調査（学内教職員対象：平成15年度のみ）

・AO入試実施後アンケート調査（AO入試実施に関与した学内教職員、合格者、受験者の担任教諭及び

進路指導主事等対象：平成15年度以降）

・高等学校進路担当教諭ヒアリング調査（高校訪問した高等学校進路担当教諭等対象：平成15年度以降）

・諸イベント実施後のアンケート調査（入学前教育、入学後フォローアップイベント、オープン・キャンパス（以下、OC）等入試広報イベント来場者及びスタッフ対象：平成15年度以降）

3 諸調査結果を踏まえての行動

3.1 AO入試導入前の各学部への依頼

高等学校側の考えるAO入試への問題点を整理し、受験生に過度の負担を避ける、圧迫面接を止める等、時間的・精神的負担を軽減し、仮に不合格になった場合でも、その後の受験勉強への影響を極力軽減するよう努力を促した。また、選抜を通して、受験生を成長させる選抜方法の実現を目指した。

3.2 AO入試改革

第1回目のAO入試実施後調査結果から、出願時期及び募集人員の見直し、第1次選考での面接導入及び地方会場設置、遠隔地からの受験者に配慮した選抜方法や第1次選考合格発表方法の検討等を実施した。その結果、この後

の入試実施後調査では、選抜方法への満足度を大きく向上させた。

3.3 説明責任の重視

AO入試実施後に高校訪問を積極的に実施し、特に合格者がいなかった高等学校に対し丁寧な情報開示を心掛けた。別に、毎年度100～200校の高校訪問の実施や、50回以上入試説明会・相談会、高等学校内ガイダンス等に参加。また、今年度より、前大学教育総合センター長をAC長に迎えたことにより、高等学校、県教育委員会等との関係が強化され、本学へのニーズを探る会議についても積極的に実施を始めた。

3.4 AC関連イベントの充実

県内入学率比率の減少を受けて、本学大学説明会を県内3会場にて実施。OCのイベント色を強め、来場者がより楽しめる内容にすると同時に、積極的に広報し、毎年度来場者を10%～20%増加させている。スタッフには200名弱の在学学生を動員し、事前に来場者への接遇に関する説明会を開く等、親しみやすい接客にも心掛けた結果、来場者の満足を高めている。

4 おわりに

今後の国立大学法人には、ユニバーサルアクセス化をにらんだ入学者選抜

方法の制度設計が必要となる。すなわち、自大学へのニーズを把握し、自大学のポジショニングを明確にした上で、大学の教育改革が必要となる。入学者選抜は、教育活動の一環として再構築されるべきであり、受験生を冷徹にただ選別するだけの入試から脱却し、高大接続を意識した、受験者を成長させる入試へと転換が求められている。そこには、マーケティングの思想が欠かれない。プロダクト・アウトからマーケット・インへの入試制度転換が必要である。そこでのACの役割は、極めて重要である。

また、AC教員を始め入試担当者が、選抜部分にしか興味・関心がないようではいけない。AC教員は、学部教育改革WGへの参加、大学教育の国際化推進プログラム（平成17年度、18年度文部科学省採択）企画・実施、キャリア教育を始めとする授業開講、サークル顧問就任等教育活動にも積極的に関与している。常にAO入学者を始めとする在學生に接し、彼らの声を吸い上げるよう努力することも、重要なマーケティング活動であると強く認識している。

広島大学AO選抜の現状と課題

広島大学入学センター
教授 杉原 敏彦

1. 広島大学AO選抜の概要

広島大学では、平成18年度から入学者選抜を一般選抜と広島大学AO選抜（正式な呼称は「広島大学AO選抜」と整理しているが、以下「AO選抜」と記す。）の二種類に区分し実施している。従来のAO入試、推薦入学、特別選抜等、一般選抜以外の選抜形態をAO選抜の名のもとに統合したわけである。そのねらいは、入学者選抜のしくみを受験生により分かりやすくするとともに、各募集単位で新たなアドミッション・ポリシーに応じて特色ある選抜を可能にすることにある。

特色あるAO選抜の例を挙げれば、たとえば総合評価方式Ⅱ型は大学入学センター試験を課す選抜であるが、一般選抜の発想でセンター試験の得点順に可否を決めるのではなく、第2次選考合格者のうち、予め公表しているセンター試験基準点以上の得点者は全員合格にするというものである。

2. 実施体制

本学のAO選抜は、入学センターにおいて出願受理業務を行った上で、各学部で選考を実施するという体制で遂行している。また、各学部で実施する選考には、当該学部の要請に基づいて

入学センター教員が参加することになっている。参加の態様は、依頼テーマ（出願書類の評価法、適切な面接の進め方等）に応じたFDの実施や小論文審査・面接審査のサポート等、当該学部の事情によって様々であるが、基本的には学部からの要請には丁寧に対応することになっている。

3. コンセプトと広報活動

本学では今春、大学全体のアドミッション・ポリシーをはじめで定めたが、その文中にも用いている「挑戦する意欲を持ち、行動を起こす人材を育てます。」というフレーズは、AO選抜のコンセプトを物語っている。これからの時代に社会が求めるこのような人材を、大学が受け入れ育てるためには、AO選抜によるのが適切だと考えている。

しかしながら、まだまだ歴史の浅いAO選抜のこと、その意義と内容を受験生に浸透させるのは容易なことではない。本学では、ここ数年、いち早く3月に高校進路指導担当教員に対して入学者選抜の説明を行い、6～7月に西日本の主な都市で受験生・保護者を対象にした全学的な説明会を開催し、8月のオープン・キャンパス（参加者数約12,000人）において本学の特長を実感してもらうという循環と見通しを持って広報活動を行っているが、AO

選抜についてもこのような方策に従って広報を積み重ねてきた。

4. 成果と課題

本学AO選抜の成果を語るには時期尚早であろう。ただ、幸いなことに、今年度AO選抜を実施した関係募集単位の受験者数を合計すると前年度よりも増加しているし、一般選抜を含めた本学の全受験者数も増加している。このような傾向とAO選抜実施との関係については、引き続き分析を試みたい。

一般にAO入試と言えば、選抜の基準や選抜方法が今一つ分かりにくいという評判を聞くことがある。この点は、ある意味で今後本学AO選抜が一層発展するかどうかの生命線でもあると受け止めているので、AO選抜問題を冊子にして高校教員等に配付したり、各募集単位の「AO選抜のポイント、面接等の出題例」をホームページ上に公開したりして、基準等の公開と周知に努めている。

このような地道な取り組みの成果とも言えようか、AO選抜の受験者等への浸透について手応えを感じているところである。

愛媛大学アドミッション・オフィスとAO入試

愛媛大学 教育・学生支援機構
助教授 井上 敏憲

愛媛大学では平成16年12月に、教育・学生支援機構が発足した。アドミッション・オフィス、修学支援オフィス、学生相談オフィスで構成する学生支援センターはこの機構の下にあり、各オフィスにはそれぞれ1名の専任教員が配置されている。アドミッション・オフィスは入学者選抜方法の改善、入試広報、高大連携、AO入試等に関する業務を担当する。また、アドミッション・オフィスとは別に、高大連携委員会と入学者選抜方法の改革に関する専門委員会が設置されている。

愛媛大学のAO入試はスーパーサイエンス特別コースで平成16年秋に実施したのが最初である。この特別コースは世界第一線で活躍できる研究者の養成を目的とするもので、大学院までの一貫的教育課程、大学からの奨学金による海外語学研修、初年次からの少人数のセミナー等に特長がある。入学定員の15名は全員AO入試で選考される。選抜方法は次のとおりである。まず、志望理由書、志願者評価書、調査書によって第1次選抜を実施する。この合格者を対象とする2次選抜には2日間を要し、講義を受けてのレポート、実験、面接を課す。AO入試は入学者

確保を狙っているとの批判があるが、本特別コースでは、入学後に必要な受験者の資質を多方面から丁寧に評価・審査している。このため、合格者数は募集定員に満たないことがある。

AO入試は複数の学部が導入を検討しており、平成19年度入試からは、次の2学部が新たにAO入試を実施する。法文学部総合政策学科昼間主コースは、地域活動に主体的に参加し、地域におけるリーダーとなる人材を養成する地域コースの設置を予定しており、プレゼンテーションなどによるAO入試で選抜する。また、教育学部芸術文化課程造形芸術コースでは、後期日程及び推薦入試を廃止し、AO入試に移行する。なお、医学部医学科が実施している地域特別枠自己推薦は、推薦入試の一形態であり、AO入試としては扱わない。

本学のアドミッション・オフィスは入試課と連携して、生産性の高い活動を目指しているが、規模が小さいため、今後導入が予定されている全てのAO入試をカバーすることはできない。現状では、AO入試での関与はスーパーサイエンス特別コースが中心である。当オフィスではAO入試以外にも多くの業務を担当している。オープン・キャンパスのリニューアル、県内複数会場での本学説明会などが今年度の重点項目である。